

C—31 上肢・下肢の長径の年齢的变化
——日本人男女について——

三重大教育 〇伊藤 令子
武庫川女大 栗屋 秋子
林 泰子

1. 4歳から17歳に至る男女の身体計測値を用い、被服構成学の立場から上肢・下肢の長径の年齢的变化について二・三考察を試みた。

2. 資料は昭和41年と42年に計測した大阪市内在住の幼稚園児と小・中・高校生1400人である。研究項目は計測値2項目(身長・足長)、計算値7項目(上肢長・上腕長・前腕長・手長・下肢長・大腿長・下腿長)の合計9項目である。

3. 主な成果はつぎのようである。

a 成長の様相は、各項目とも男子は14, 15歳、女子は13, 14歳までの増加が顕著である。性差は、11歳で下腿長・足長・手長以外の項目は一時的に女子が男子を上まわるが、14歳以後は全項目に亘り男子が優れ、性差が顕著になる。17歳では、各項目女子は男子の90~94%をしめるようになる。

b 成人値に到達する年齢は、女子は男子より早く、また男女とも下肢長は身長・上肢長より早く、足長は他の諸部位より早い。